



エベレストに会いに再度ヒマラヤへ

(2016.4.9~4/28)

記. H.H 様 2016.4

「七十歳代？元気だね、頑張れ！」とトレッキング中に追い越されるグループに何度か励まされ、写真撮影まで所望された。(ご心配なく、マスク・サングラス・帽子で変装しているので顔は判明しません)

二年前に地学の元先生達男性四名とテントメートの女性と六名で同じコース「エベレスト街道」のカラパタールを目指したが、残り一日という所で前日からの降雪、一晩に 30cm の積雪、これが二日は続くだろうという天気予報で景色は見えないし、スパイクを持参しない旅なので下山した。この年は季節外れのモンスーンが通過した異常気象の年であった。自然を相手とはいえ残念で、テントメートの T さんとまた来ようと約束した。

翌年、「年々衰えるので時間がない」と計画を立てたが、ネパールの大地震で街道の一部が崩れ、途中の村が全壊状態という情報も入り、2016 年 4 月に決行となった。今回は小屋泊り。女性だけのグループとし、ゆっくりペースで計画した。

前回は山の地形を眺め、崖の石をハンマーで叩き、貴石を探し、ゆっくりの進行だったので疲れず高山病の症状もなかった。「ゆっくり」がキーだと考えたので今回は日本から 20 日間のツアー行程である。

ネパールの首都カトマンズからルクラまでプロペラ機で飛び、そこからは全て歩きとなる。メンバーはガイド一名、ポーター三名と女性四名。前回テントメートだった T さん (71 才) とその友人 I さん (75 才)、私 (73 才) と山仲間の A さん (66 才) である。ポーター達は先行。背の高いすらりとしたガイドの若者が鼻歌混じりでリズムカルに歩く後を小柄なちょこちょこ歩きのお婆さん四名が続いて歩く姿はちょっと見ものだったかもしれない。(後で聞くと歌声は「お経」と、時には日本語で「雪山賛歌」であった)



山岳空港ルクラ



ラージャ・ドバンの吊橋



石楠花とコンデ・リ山群

このガイドについては、年寄相手なので親切、日本語が少し分る、緊急時には抱えて降りてくれるような屈強な男性、という希望を申し込んだ処、予想以上に素晴らしいガイドを紹介された。出掛ける前から「イケメンだよ」という旅行会社の情報に期待した。その通り、振り返っては、優しい目で「〇〇さん、頑張ってください！」と言われると元気が出た。行程中も高山病にならないための対処法、疲れないための歩き方等指導を受けて、全員が目標達成した一番の要因である。

また、初日と二日目に日本人の「エベレスト登頂隊」と同じ小屋泊りとなり、その隊長 (K 氏) から山での注意を聞き、実行したことも成功要因である。K 隊長は「エベレスト登らせませす」というビジネスも兼ねていて、科学的に、合理的に行程をこなすことも大切で、素人でも安心・安全登山が出来ることを学んだ。



国鳥 ダンフェも見つけた



タムセルクを見ながら



バンボチェからエベレスト



トゥクラからロブチェへ



ゴラクシェブはもうすぐ



眼前にエベレスト(カラパタールから)



四人組 遂にカラパタール登頂

高度順応には、次のステップの高度まで経験し、その日は200m~300m下まで降りて宿泊する。これを繰り返して高度を上げていく。一日に500~700mだけ高度を上げる。

ルクラ(2840m)から歩き始め、ヒマラヤを横断して流れるドドコシ川に沿って北へ遡り**ナムチェ・バザール**(3446m)まで二日かけて行く。ここは北のチベット側からヒマラヤを横断して流れるタドコシ川と東から縦断して流れるイムジャコーラ川の合流点で、氷河が造ったモレーンの上にある。丘の上には「エベレストビューホテル」があり、このテラスで遠くエベレストを眺めながらコーヒーをいただくと、多くの人はまず満足する。二日間高度調整した後イムジャコーラを左岸に渡り**デボチェ**(3760m)という尼僧の村に宿泊。

歩き始めて六日目、川を右岸に渡りエベレストからのクンブ氷河を横切って**ディンボチェ**(4410m)で宿泊。高度調整後クンブ氷河の右岸へ戻り**ペリチェ**(4252m)に宿泊。次の日からは氷河を遡り**ロブチェ**(4930m)へ。少し雪がちらつく。翌日よいよ最終宿泊小屋**ゴラクシェブ**(5100m)へ。このルートは氷河の運んだ大岩ばかりの難所である。

十日目、エベレストからの日の出に合わせてヘッドランプ装着で午前四時半小屋を出発。ガイドの後ろをユックリ登る。最後尾ポーターの一人がお茶のポットを持って付いてきてくれた。中腹でポットの蓋が気圧の低下で飛んでしまい、ポーターが探している間にみんなで熱いマサラティーを頂く。これが最高の美味であった。

カラパタール(5545m)からはエベレストBCのテント群が目の下に見え、エベレスト登攀ルートの「アイスフォール」が見えるが途中で手前の「ヌブツェ」(7855m)の山陰に入り見えなくなる。上方に「ローツェ」(8516m)からのエベレスト南稜が見え、稜線上方に「ヒラリーステップ」が確認できた。まだ四月中旬、エベレスト登攀ルートはネパール隊が整備中で、二百人近い登山隊が待機していた。帰国後小屋で出会った登頂隊の登頂成功の情報が入った。

帰りは二日かかったところを一日で飛ばして下るが、高度が下がるに従って気温が上昇、体中が酸素で満たされる感じ、暖かくなり幸せ感で一杯になる。

行く時は尼僧の村近辺はまだシャクナゲのトンネルに花はなかったが、帰り道では満開の花に歓迎された。

エベレスト街道は村人の生活道路でもあり、トレッカーが一日かけて移動する道を村人は日常的に往来する。地震からの復興が遅れていることもあり、今年は観光客が少ないということであった。

まもなくネパールは雨期に入り、山の観光しかない国は仕事が減りづらい季節であるが、ガイド達、山で暮らす人たちは自分の村に帰り農作業をする時期でもある。